終わりに

鳴沢村誌資料編
専門調査委員長　小林美知

『鳴沢村誌』第一・二巻は、資料提供者のご協力、執筆者のご熱意によって、大変順調な進行で七年前に刊行されました。普通この種の本は長い年月にわたって各種資料を集め、検討を重ねる必要があるのですが、事業には実施の機運も重要なため、まず二巻が出版されたのでした。また、村誌はその体裁上、専門の先生に、原稿枚数を限って書く要請をしますから、数多い資料を存分に引用して分かりやすく議論を展開し解説なさりたいのに、そうもいかない事情も生じました。こうした編集時の悩み、また、せっかく提供された貴重な資料がまた散逸することも惜しまれ、全部の収録は困難にしても、できるだけ多くを残したい念願が生まれました。そして継続事業として認められ、資料編編集が始まりましたが、残りの古文書の解説、新資料の発見や意義づけにも案外日時がかかりました。

しかし一方にはまた、郡内藩主秋元家三代七十二年の記録「秋元家甲州郡内治績考」を原本所蔵の群馬県館林図書館のご好意で完本として県内で初めて収録したことなどもありました。今後の秋元氏研究に県内外で大いに利用されることでしょう。

「年貢皆済目録」は、成沢村の歴年の年貢の受取証で、一見そう変わりもなさそうに思われますが、豊凶年にわたる村の苦闘の歴史。「寛文九年の検地帳」三冊は、税徴収のための当時の最も正確な土地台帳。「宗門人別帳」は、その年の村内各家の家族の記録。「甲駿国境争論」は、鳴沢村が静岡県との境で、広大な富士西北麓を取りしきる立場から残した二百数十年にも及ぶ大量な国境争議の記録。等々、ほんの数例だけから考えてみましても既刊の村誌を補

い、重味を増していることをこの第三巻で実感されることと思います。また、村の皆様方が、わが家の過去を回想される重要な内容も含まれているなど、村民自身が読み解く豊富で、貴重な資料集でもあり、活用が大いに期待されるわけでもあります。

十余年間、全体構想から執筆の細部にわたりご指導いただいた小島勇先生を始め執筆の諸先生、出版の(株)サンニチ印刷に対し感謝を申し上げ、専門調査委員を代表してあいさつといたします。